

令和元年度 みらいホーム 事業実績報告書

1 総括

心からくつろげ、安心できる場所、いつまでも居続けられる場所、一人ひとりが生活の主体者となる場所がみらいホームの基本方針であり、目標である。このために入居者との信頼関係の構築、生活のコーディネート機能の強化に取り組んできた。今年度も31名の入居と一緒にゆっくりではあるが少しずつ目標に近づいてきていると感じている。

また、より多くの人々が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにグループホームの拡充もみらいホームの重要課題である。令和元年度に5つ目のユニットとして女性専用のユニット、「カトレア」を開設し、7名の入居者が新しい生活をスタートした。開設後まもなく入居者の急逝という悲しい出来事があったが、「その方のためにも良いホームに」という思いで現在歩んでいる。カトレアは準備から開設までに約5年を要した計画であった。地域にはその入居希望者に対してホームの数が不足している。時間はかかるが、今後も一つひとつ確実に生活の場を作っていくたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム (ユニット: アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹)
- 2) 事業種別 共同生活援助 (介護サービス包括型事業所)
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 31名
- 6) 利用現員 31名 (令和2年3月31日現在)

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名 (内男性4名)
クローバー	7名	7名 (内男性4名、女性3名)
藤ハウス	6名	6名 (内男性6名)
花の樹	7名	7名 (内男性5名、女性2名)
カトレア	7名	7名 (内女性7名)

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員 (令和2年3月31日現在)
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 (兼務: 常勤換算1.0)
 - 世話人 15名 (常勤換算11.2)
 - 生活支援員 17名 (常勤換算9.5)

3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援
- 4) 安心できる将来への支援

5 実施事業 (活動内容)

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

(1) 新ユニット「カトレア」の事業安定化

- ① 家族や関係機関からのアセスメントを基に、入居者の支援計画を作成し、職員間で支援方針、方法の統一を図る。
- ② 職員間で入居者の状況の引継ぎや情報共有を徹底し、一貫した支援を行う。
- ③ 新生活に移行してからの本人の状況の変化などを丁寧に観察するとともに、家族等と情報共有を行うことできめ細かい対応を行う。
- ④ 入居者と信頼関係を築くと共に、入居者間の人間関係に配慮し、良好な関係が築けるようにする。

【成果と課題】

- ① ② 利用前の個別面談や情報シートを基に支援計画を作成し、職員への周知を行った。実際の支援では、職員間で活発な意見交換が行われたほか、主たる職員の伝達の徹底や記録の活用による情報共有が行われ、概ね一貫した支援が行われた。
- ③ 新生活移行後、家族や通所先事業所、相談支援事業所等と連絡を密にとり、心身の状況変化や生活上の支援内容の確認などを行った。安定してホームで生活できており、順調に新生活へ移行できたと感じている。
- ④ 開設当初は入居者同士また、職員とも互いに戸惑いを感じる場面もあったが、時間の経過と共に徐々に良好な関係が築けている。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能拡大

- ① すでにホームが生活全般のコーディネートをしている7名の支援内容を整理し、職員間で共有する。また、不足している支援内容を検討し支援機能の拡充を行う。
- ② ①以外の入居者24名および家族等との面談を実施し、将来希望する生活の形について希望を聴取し、コーディネート機能の移行計画を作成する。

【成果と課題】

- ① 7名については、各ユニットの主たる職員を中心に継続的に通院同行、日用品の買い物、行政手続きの補助、預り金管理等を行った。支援機能の拡充について整理が行えず、今年度は、現状を維持した状況であった。

< 7名の内訳 > アンダンテ 1名
クローバー 2名
藤ハウス 1名
花の樹 1名
カトレア 2名

- ② 面談を希望した5名（アンダンテ2名、クローバー2名、カトレア1名）の家族と個別面談を実施したが、日常生活支援等の話が中心となり、将来に向けた支援内容の確認については、実施できなかった。

(3) 入居者の生活の質の向上

家族、関係機関、ホームの職員間で入居者の情報を共有し、現在の生活がより充実できるよう丁寧且つトータルに支援を行う。

- ① 家族・関係機関との連携・情報共有
 - ・ 家族、関係機関等と連携し入居者の生活全般に渡る状況を丁寧に把握する。
- ② 個別支援計画の作成・評価の実施
 - ・ ①の情報を基に、個々の支援計画を丁寧に作成するとともに、半年ごとに評価を実施する。
- ③ 職員間の連携・情報共有
 - ・ ②の支援計画の周知徹底を図る。
 - ・ 月1回の定例会議を実施しケース検討を実施する。
 - ・ 入居者予定表・ケース記録・業務日誌への記入と確認の徹底を行う。

【成果と課題】

- ① 必要に応じて、家族や関係機関と情報の共有や交換を行いながら支援を行った。また、希望者5名と個別面談を実施し生活状況、健康面等の確認を行った。この際3名の家族からは、ホーム内の生活状況の報告が不足しているとの意見があった。家族懇談会の実施や日頃の家族とのコミュニケーションを増やすことで改善を図った。
- ② 支援計画の共有が不足しており、計画に基づいた支援やその支援経過等を記録することが不十分であった。年度後半に、ケース記録の書式を変更し、支援計画を意識した記録について周知を行ったが、記録内容が、一部の計画に偏ってしまうことや、記載漏れなどがあり、十分な改善は図られていない。
- ③ 月1回のケース検討会議はクローバーのみの実施となった。ケース記録、業務日誌への記載と確認は、やや改善はみられたが不十分であった。ただし、入居者の日常の様子や予定等については主たる職員からの口頭伝達や引継ぎにより概ね共有できた。

(4) 地域の住まいのニーズへの対応

新規グループホームの2021年度の開設に向けて準備を進める。

- ① 行政との事前打ち合わせを継続する。
- ② 日中サービス支援型の運営について情報収集を行う。
- ③ 東京都の補助金申請の準備を行う。
- ④ 入居者の生活パターンに応じた複数ケースの運営費の試算を行う。
- ⑤ 設計・管理業者を選定する。
- ⑥ 入居者の選定方法を決定する。

【成果と課題】

- ① ② 小平市障がい者支援課と福祉計画について懇談を行い、開設の内諾を得た。また、東京都福祉保健局居住支援課（事業指定関連）及び基盤整備担当（補助金関連）へ日中

サービス支援型による新規ホーム開設に向けた事前相談を実施した。

- ③ 東京都の補助金に関し東京都へ事前相談を実施し、計画通り、補助金の申請手続きを行うこととなった。
- ④ 試算は未実施である。
- ⑤ 理事会での審議を経て、設計・管理業者の選定を行った。
- ⑥ 長年当法人を利用している利用者が、将来も安心して地域で暮らせること、また、現在の生活を維持することが困難と思われる緊急性の高い方が安心して生活できる環境を整えることを開設の趣旨とし、入居者の選定を行うことが理事会にて決議された。

2) 人材育成

(1) 管理職候補者の育成－対象者2名

《到達目標》

- ・全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を身につける。
- ・全職員に支援方針を明確に周知し、方針に基づいた支援の実行を徹底させる。
- ・課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。
- ・多角的な視点による、適切な判断基準を身につける。
- ・給付費および都加算請求の知識を身につけ実践する。
- ・経理全般の知識を身につけ出納業務をミスなく実践する。
- ・地域の社会資源の状況、成年後見、生活保護法等の学習会に参加し入居者の生活相談を受けられる知識を身につける。

【成果と課題】

管理職候補として、主たる職員の内2名を選抜したが、本人の意向により、年度途中に1名に変更となった。対象職員については、日常業務での利用者支援や職員への指導はよく行っており、日々入れ替わる職員のコーディネートや情報の共有についても丁寧に実施できていた。しかし、自身の考えに自信が持てなく、判断力が不足する場面も多々あった。現場責任者としての判断力の向上が課題である。管理職候補として育成のため、経営問題についての学習を進める予定であったが、現場支援に追われる形となり、制度等の学習に留まり実務の習得には至らなかった。

※各ユニットに配属の主たる職員について

入居者の支援の管理、家族及び通所先等との連絡窓口、職員への指導、職員の勤務調整・勤怠管理、管理者からの指示の伝達や管理者への報告などの日常業務全般の取りまとめを行った。全ユニットとも、概ね的確に業務が行え、安定して事業が実施できた。但し、ケース記録等の指導や管理については前述のように課題が残った。

(2) 世話人・生活支援員

《到達目標》

- ① 職員の情報共有を徹底し、一貫性のある支援を行う。
 - ・ケース記録を不備なく正確に記録できるようにする。
 - ・ケース記録の確認を習慣化し、申し送り事項を遵守する。
 - ・利用者支援の質の向を図る。
- ② 事故防止を徹底する
 - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。

【成果と課題】

- ① 全ユニットとも、主たる職員の指示等のもと健康面、心情面に配慮した丁寧な日常の支援が行えた。しかし、ケース記録については、誰の言動かが不明確、職員の主観と事実の混同、支援経過の記載漏れなどがみられた。個人差はあるものの、全般的に不十分な記載が多かった。
- ② 2名体制で確認するという、服薬管理マニュアルを遵守せず、クローバーにて服薬間違いが3件あった。大事には至らなかったが、誤薬は、体調不良となる可能性が非常に高い案件である。マニュアルや取り決めに遵守することにより防げた事故であったことから、継続的な指導を徹底する必要がある。

3) 経営管理

- (1) 自立支援給付費の加算等について情報を収集し、対象となりうる加算があればその取得に努める。

【成果と課題】

福祉専門職員配置加算Ⅰ型の加算申請を行い、9月より加算対象となった。月額約8万円の増額、令和元年度は7か月分の請求で同加算部分が前年度比で約56万円増額した。

- (2) 給付費と共に都補助金の増額に向けて利用実績の増加に努める。

【成果と課題】

365日の利用者数は6名（内アンダンテ1名、クローバー2名、藤ハウス1名、花の樹1名、カトレア2名）であり、本人や家族の意向により、多くの入居者が週末は自宅に帰宅した。今年度開設したカトレア以外の4ユニットの利用実績は、昨年度とほぼ同じ利用率であった。1名の支援区分の変更により、給付費は約50万円増、都加算制度改定に伴う減額分は約320万円となり、差引約270万円の減額となった。しかし、カトレアの開設によりスケールメリットが活かされたことに加え、職員採用の遅延に伴い人件費が抑えられたことにより、令和元年度の事業活動の収支見込は、昨年度比約1,060万円増額の約1,900万円となった。

なお、コロナウィルス流行による利用実績の減少はなく、訓練等給付費への影響はなかった。

- (3) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態は把握されている。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

- (4) 将来の建物修繕等に備え、入居者からの家賃収入等から資金を計画的に積立てる。

【成果と課題】

法人所有の建物である、クローバーとカトレアについては、将来の建て替えや大規模修繕用に備え、以下の通り年度末に積立を実施した。

《クローバー》

	平成30年度積立額	令和元年度の積立額	合計
建て替え用資金	900,000円	900,000円	1,800,000円
大規模修繕用資金	228,000円	230,000円	458,000円

《カトレア》

	平成30年度積立額	令和元年度の積立額	合計
建て替え用資金	0円	900,000円	900,000円
大規模修繕用資金	0円	240,000円	240,000円

4) その他の課題・目標

(1) 市内グループホームとの連携 強化（グループホーム連絡会の実施）

定例会を年5回実施し、直接支援を行っている職員間で、入居者支援に関することや業務全般について情報交換や学習会を実施する。共通の課題等について一緒に検討することで、地域のグループホーム全体の充実を図る。

【成果と課題】

市内でグループホームを運営している8法人が年に4回集まり、グループホーム見学会や情報交換、学習会等を行った。各グループホームの課題や問題に対し、入居者がより快適に過ごせる方法や、グループホームがより充実した事業を運営できるように、建設的な意見やアイデアが出された。

(2) バックアップ施設による支援

- ① 巡回 — 月1回バックアップ施設担当職員が巡回し入居者との交流を図る。
- ② 行事参加 — 入居者が施設の行事に参加することにより余暇活動の幅を広げる。
- ③ 緊急対応 — ホーム職員の急なけが、病気、その他の理由により支援者が一時的に不足した際は、グループホーム施設長からの要請によりバックアップ施設職員が入居者の直接支援を行う。

【成果と課題】

月に1回、通所の4事業所の担当職員が3ユニット（アンダンテ、クローバー、藤ハウス）への巡回を実施した。3ユニットの内、アンダンテ、藤ハウスは、温泉施設に外出の後、外食をしており、クローバーは、毎月ホーム内でゲームなどを楽しむほか、年に2回外食をした。入居者は担当職員の巡回を楽しみにしており、良い交流が図られていると感じている。また、クローバーの一般就労している入居者1名がワークセンター夢の樹の行事に5回参加した。日頃、仲間との外出機会が少ないこともあり、大きな楽しみの一つとなっている様子が伺えた。

＜バックアップ施設＞

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・小平第二みどり作業所
- ・夢風船

(3) 夜間等緊急時の対応

夜間等支援者が少ない状況下で緊急的に支援が必要となった場合は、ホームの職員の緊急時連絡網により支援態勢の確保を行う。

【成果と課題】

夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。現在は管理者と主たる職員のうち2名の計3名が対応することとなっているが、3名とも市内在住でないこともあり、緊急時の迅速な対応が課題と考えている。より早い対応を可能とするため、職員の自宅の位置、生活状況、対応力等を考慮し、他の職員による対応も含めた緊急時の支援体制を検討したい。

(4) 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努める。

【成果と課題】

ホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

(5) 健康管理

健康診断・身体測定の結果を基に健康状態の把握に努めるとともに、関係事業所や家族との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

【成果と課題】

入居者の健康管理のため栄養バランスを意識した食事作りを心掛けた。また、健康状態把握の一つとして、毎月1回の体重測定を実施した。日ごろの運動量も少ないことから肥満防止については特に注意を払った。また、アンダンテ、クローバーの家族より、食事内容を知りたいとの要望があったことから、2ユニットについては、献立表を配布し、家庭と食事内容を共有することとした。そのほか、各ユニットともに、風邪症状、皮膚疾患、歯科・眼科検診等、必要に応じて通院同行を行った。年間を通して、疾病等により、大きく体調を崩す入居者はなく、健康状態を維持することが出来た。

	定期通院同行	風邪症状他必要に応じて同行		
アンダンテ	0名	2名	(計2名)	
クローバー	2名	2名	(計2名)	
藤ハウス	1名	3名	(計3名)	
花の樹	1名	4名	(計4名)	
カトレア	1名	1名	(計1名)	※実数

(6) 防災

管理者の指揮のもとに、非常災害訓練を年2回実施する。

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。